

サイコロ

ISHIKAWA MERIYASU MAGAZINE

Special Feature

“ 3つの原点をたどる ”

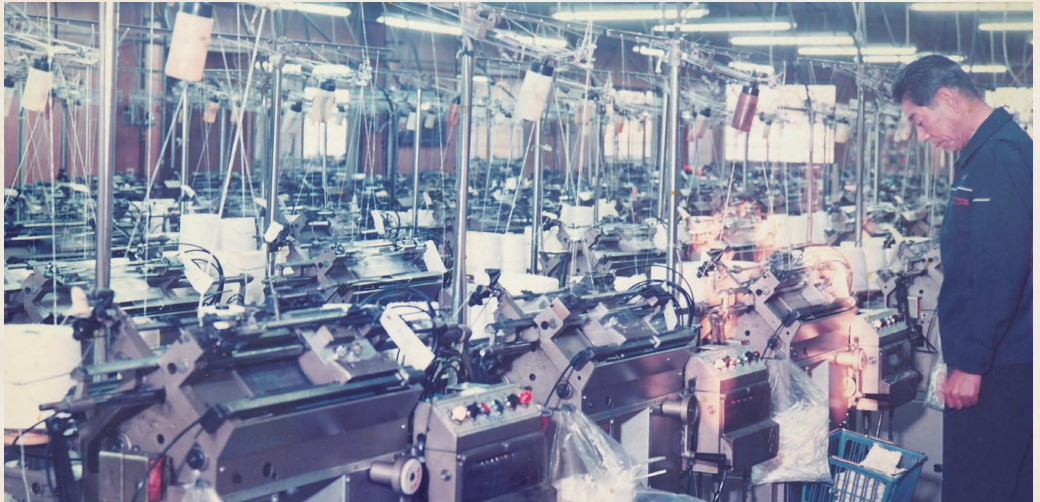


Column

私と石川メリヤス

News

求人特設サイトを開設しました



1.



2.



3.



4.

進取の気性、自主独立、地道な努力 3つの原点をたどる

「借金をして善久寺の前に土地を買って、夜遅くまで働いていた。でも、機械の音は大きいし、女工さんたちはラジオをかけていた。ご近所から『やかましい!』と苦情が来たよ。あれじゃ眠れんもの。追い出されて当然だったね」

1957年に愛知県の吉良町・宮崎地区で創業した石川メリヤス。手動式手車編機で操業していた頃のドタバタを思い出すのは、創業者・石川進の妻であるきよ子です。ご近所に頭を下げつつ、進は石川メリヤスの原点とも言える機械を導入します。島精機製作所が1964年に発売した全自動角型手袋編機です。業界の主流は松谷鉄工の編機で、そのほうが生産性は高かったと進の長男で

2代目社長の石川君夫は解説します。

「でも、松谷の機械は車手を引っ張りながら編む仕組みなので製品が伸び切ってしまう。島精機のほうはふわっと仕上がって着け心地もいい。親父は島精機の編機に替えた。即断だったようだ」

慣れ親しんだ機械をすべて入れ替えるという決断。その意義を島精機製作所の創業者である島正博名誉会長は次のように評価します。

「当時は編機が日進月歩の進化を遂げていました。石川さんは常にチャレンジ精神を持って新しいことに取り組んでおられました。だからこそ、日本どころか世界にもまだない機械を買って使いこなそうと決断できたのでしょう」

高品質の製品を作るためには、新しい技術の導入や設備投資を迷いなく

行う——。1969年に現在地である田園地帯の吉良町富好新田に移転してからこの姿勢は継続。1972年に入社した君夫によって引き継がれ、SPF(5本指ソックス専用編機)、SJF(ジャガード編機)、SWG(ホールガーメント横編機)といった革新的な機械を島精機が開発するたびに積極的に導入してきました。

また、進は独立独歩の性格でした。作業用手袋は受注生産が普通でしたが、自主企画の高品質な作業用手袋(現在も製造している「サイコロ」シリーズ)を企画し、自庫在庫して販路を開拓。この気風も石川メリヤスの社風となり、現在に至るまでのロングセラー商品である2重編靴下「ラブヒール」(1993年)の開発などにつながっています。

一方で、進は「ゴマカシが嫌いだった」と君夫は証言します。原料などの

1. 漁師だった父親とケンカして家を出て起業した石川進
いつも何かを考えており、毎年のように工場
のどこかを改修・増築する人でした。
2. 手動式の手袋編機
進は中学校卒業後に船員を経て名古屋市内
のメーカーに就職。写真のような編機を使っ
た生産に携わり、ニット製品作りの基本を身
につけました。(写真提供：島精機製作所)
3. サイコロ印®の作業用手袋
創業当時から続く石川メリヤスの自社ブランド
です。オンラインショップにて個人向けの一双
売りも行っています。
4. 創業初期の工場跡地
古い住宅地の中にあり、騒音の苦情が絶えま
せんでした。現在は工場だった建物を製品の
倉庫として使っています。

ホールゲームは
株式会社島精機製作所の登録商標です

仕入れ先はほとんど変えず、買い叩く
ことなども決してしませんでした。

「信頼関係がわかる人だけと長く付き
合う。みんなの採算が合うような仕事
をする。それがうちのやり方だ」

「ショルダーフォン」と言われていた頃
の携帯電話をいち早く購入した新し物
好きの進。釣りや狩猟、絵画など多趣味
でもありましたが、賭け事はまったくせ
ず、バブル経済期も株式投資などには無
関心。いくつか購入した土地はすべて自
社用。転売目的ではありません。そんな
創業者を君夫は次のように総括します。
「手間暇かけてでも他よりいいものを
作るというプライドがあった人だった」

進取の気性と自主独立の精神を
持ち、ゴマカシのない地道な仕事を毎日
やる――。石川メリヤスはこの原点を
忘れずに働き続けます。

私と 石川メリヤス

1962年設立(創業は1957年)の石川メリヤスは2022年に設
立60周年を迎えました。長くお世話になってきた方にお話を
伺うシリーズの第6回は川村徳佐^{なむら とくさ}さん。群馬県桐生市にある
原糸卸売商(糸商)の4代目で、石川メリヤス3代目社長の
大宮裕美とは学生時代からの付き合いです。

裕美さんとは一橋大学の同級生で、入学当初の花見
コンパで飲み交わして知り合いました。学部も同じで
したがお互い体育会系の部活は別でゼミナールも別。
学内ですれ違えば挨拶する程度の仲でした。

奇遇だったのは2000年新卒入社の丸紅も一緒だっ
たこと。30人しかいなかった同期入社の仲間です。当時
の丸紅は繊維部門への新卒配属はなく、私は食料部門へ
裕美さんは財務部に配属されました。同期のメンバ
ーたちとは今でも連絡を取り合っています。

ブラジル駐在から帰国した私が丸紅を退職して家業
に入ったのは2012年です。裕美さんはすでに御社に
入っていたので、同期のよしみで糸を買ってくれないか
なと思って連絡しました。吉良町の御社を2回ほど訪問
して、工場で何をどう作っているのかを見学し、2年後
に取引が始まりました。

顧客の要望を聞いて糸を用意したり、新しい糸を買
ってもらっただけで糸商の仕事が済んでいた時代は過ぎ去
りました。今後は、「新しい売り先に一緒に提案するこ
と」が重要だと考えています。メーカーが持っている技
術と機械を想像しながら、弊社が扱う素材との相性を
考えて営業活動をするのです。御社とはそのような「共
同作戦」ができる関係性だと思っています。



「フェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションに
勝るものはない」という信念がある川村さん。
年に一度は必ず石川メリヤスを訪問してくれています。

News

弊社ウェブサイトにOEM事例を掲載しています

石川メリヤスの生産の約8割はOEM(他社ブランド製品の製造)です。ご依頼主様からの「こんなものを作りたい」というアイデアを可能な限り形にしています。石川メリヤス自身も自社ブランドの企画・生産・販売を行っているため、その経験を活かした提案が可能です。生産ロットは1型200(足・双・枚・本)からお受けしています。

どんな依頼にどのような提案をしてどう生産しているのか。具体的にわかりやすくお伝えるため、ウェブサイト内にOEM事例集を開設しました。随時更新していきますので貴社のモノづくりの参考にさせていただけると幸いです。



事例の第1弾は愛知県西尾市一色町にあるアパレルブランドの渦Japan様。残糸を使ったアップサイクル商品である「七変化スヌードボンチョ」(写真の商品)の生産に携わらせていただきました。



OEM事例集TOP

求人特設サイトを開設しました

様々な業種で人手不足が問題視される中、製造業が盛んな愛知県の中小企業である石川メリヤスも常に人が足りていません。大手企業のようにインターンシップを採用活動につなげることは難しいため、石川メリヤスでは学生インターン生を「新入社員候補」ではなく「プロジェクト担当者」に据えることにしました。

日本福祉大学2年生の遠藤さんには、採用サイトのコンテンツ制作を任せて、このたび求人特設サイトができあがりました。遠藤さんによる各工程の体験レポートや社員インタビューなど、これから働く人の視点での会社紹介もあります。ぜひご覧ください。



インターン生の遠藤仁菜さん。
約1か月間のインターンシップ期間で
期待を上回る成果を出してくれました。



求人特設サイト

Editorial Note

ある繊維工場を案内していただいたとき、歴史を大切に物事を考える姿勢が印象に残りました。生産している商品の歴史も振り返り、厚くて柔かい生地を使った原点回帰の商品を復活させたりしている工場です。以来、石川メリヤスの原点って何だろうと思い続けています。本誌10号の取材では島精機製作所の島正博会長とお会いしました。そのとき、島会長と祖父との思い出話を聞き、弊社の原点に少し触れられた気がしたのです。そして、11号の特集制作を通して、「進取の気性、自主独立、地道な努力」というキーワードが浮かび上がりました。歴史から、今後の指針を受け取った気がします。(大宮裕美)

Credit

編集・執筆・撮影・発行 石川メリヤス有限会社
Art direction & Design 相田貴子 (Consulting Design Tokyo)

2025年1月発行

冊子名『サイコロ』とは

「メーカーの基本は何よりも品質」。
初代社長の想いが込められた創業以来の作業用手袋「サイコロ印」のブランド名から名付けました。
本冊子では、この精神を守りつつ、石川メリヤスの「いま」をお伝えします。

商品問い合わせ&注文先

石川メリヤス有限会社

〒444-0515 愛知県西尾市吉良町富好新田紺屋堀 27-2
TEL 0563-32-0420 FAX 0563-32-3066
E-mail info@ishimeri.com URL https://ishimeri.com